



第2号

National Institute of Technology, Sendai College

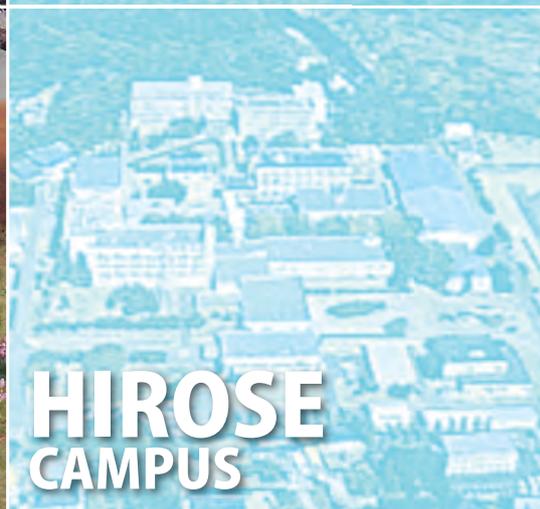
仙台高専

URL <http://www.sendai-nct.ac.jp/>

だより

CONTENTS

- 2 卒業生・修了生へのメッセージ
- 3-4 進路指導と進路実績について
- 5 新任教員紹介
- 6-7 学生の活動状況について
- 8-12 卒業生・修了生の研究題目一覧
- 13 研修旅行について
- 14 文芸コンクール・読書感想文コンクール
- 15 教職員からの教育研究・業務紹介
- 16-17 退職教職員からのメッセージ
- 18 活動状況報告
- 19 キャンパストピックス



仙台高等専門学校

卒業生・修了生へのメッセージ

卒業・修了を間近に控えた学生諸君は、これから行く世界に希望と不安を抱いて過ごしていることと思います。この仙台高専だよりが配布される頃には、既に新しい仕事や生活がスタートしているかも知れません。上記のような思いは、将来を考え、未知の分野を進んでいこうとするときは、だれしも同じです。逆に同じ仕事を続けていると、慣れによってそのような気持ちを失っていきませんが、それこそが問題です。新しい時代を見据え、どう進んでいくべきか常に考えることがこれからの時代はますます重要になっていきます。



校長 内田 龍男

これからの社会は変化がさらに激しくなっていくと思います。過去の蓄積がそのまま機能するのはたかだか数年～10年で、20年もたてばほとんど全てが大きく変わる時代です。この10数年の日本企業の盛衰の激しさ、事業内容の変化の目まぐるしさなどは皆さんもご承知のことと思います。

高専で学んだ諸君は、専門の理論、その応用力、実践力、創造力など、企業で必要とされる基本的な力を身に付けており、それを実社会で磨き上げていけば大きな力になるはずですが、ただ、社会の大きな動き、所属する企業や組織の動向によって、運良く波に乗る人もいればそうでない人もいると思います。このように一人一人について見れば運命は様々な方向に向いていき、自分では変えることができないことも多いでしょう。しかし、自分が選んだ道、与えられた役割に全力で立ち向かうことが重要で、結果はそれについてくるもの、天が決めることです。懸命に努力した後は、それがうまくいかなくても不思議に次の道が拓けてくるものです。

一方、在学中の学生諸君は、今から将来の目標や夢を持って欲しいと思います。まだ何を目標にして良いかわからない諸君もいると思いますが、その場合はそれが見つかるまで、まず力をつけておくことに努めることも重要と思います。その力の基本は

- 基礎学力とその実践的応用力、創造力
- 日本を知り、外国を知るいわゆる国際感覚およびコミュニケーション力
- 責任感と優しさ、人の考えや気持ちを理解する力、実行力などの人間力

などです。これらは授業だけでは得られないことが多く、部活動、クラス活動、寮生活、いろいろな行事などに積極的に取り組み、その中心的役割を担うことが最も効果的です。

卒業生も在校生も、若い諸君はまだ失うものはない、これこそが強みです。信じる道を精一杯生きることの喜びを是非味わってほしいと思います。そして、皆さんに素晴らしい未来が開かれることを心から祈っております。

進路指導と進路実績について **名取**

平成26年度卒業・修了生の進路について

名取キャンパス 学生主事 佐藤 一志

平成26年度の本校名取キャンパスの本科学生は162名で、76名が就職希望、82名が進学希望、その他(公務員等)が4名でした。専攻科生は42名で、27名が就職希望、10名が進学希望でした(その他5名)。就職希望者については本科、専攻科ともに全員の進路が決定しました。名取キャンパスの求人倍率は最終的に本科、専攻科合わせて17.4倍でした。平成25年度の10.1倍よりかなり増加しました。

名取キャンパスでは、10月に4年生全員を対象に進路ガイダンスを行いました。また、11月には、女子学生を対象に面接等への対応を考えたメイクアップ講座を行いました。11月にはSPI対策講座を開催し、合格率の向上に努めました。また、12月には就職支援セミナーを実施し、コミュニケーション力アップを図りました。1月から3月にかけては、就職に関する個人カウンセリングを実施し、就職活動に不安を持つ学生のカウンセリングを実施しました。また、2月末には企業研究会を実施し、多数の学生が出席しました。

これらのキャリア支援活動に応じて、学生は十分に自己分析および企業研究をすると共に積極的に就職活動を行い全員の就職が決定することができました。

進学状況(平成26年度)

大学編入学等状況

東北大学…1名、北海道大学…3名、大阪大学…2(1)名、秋田大学…1名、岩手大学…1名、宇都宮大学…2(1)名、工学院大学…1名、仙台高等専門学校専攻科…44(8)名、千葉大学…1名、筑波大学…1名、豊橋技術科学大学…9名、長岡技術科学大学…7(2)名、新潟大学…4(1)名、福島大学…2名

合計…79(13)名

※()は内数で女子

大学院進学状況(専攻科)

東北大学大学院…6(1)名、北陸先端科学技術大学院大学…1名、横浜国立大学大学院…1名

合計…8(1)名

※()は内数で女子

就職先一覧(平成26年度)

準学士課程

株式会社アート・システム、アイリスオーヤマ株式会社、アイワビルド株式会社、ALSOK岩手株式会社、株式会社安藤・間、出光興産株式会社 千葉製油所、株式会社エイアンドティー、株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、大阪ガス株式会社、花王株式会社、株式会社かわでん、株式会社きんでん、株式会社建築工房零、株式会社鴻池組、COM電子開発株式会社、サッポロビール株式会社 仙台工場、サントリー酒類株式会社、GEヘルスケア・ジャパン株式会社、JX日鉱日石エネルギー株式会社鹿島製油所、JX日鉱日石エネルギー株式会社仙台製油所、JSR株式会社鹿島工場、清水建設株式会社、昭和電工株式会社 川崎事業所、新日本空調株式会社、セイコーエプソン株式会社、仙台市職員、株式会社船場、SOLIZE Engineering株式会社、ダイキンエアテクノ株式会社、高砂熱学工業株式会社、タカラスタンダード株式会社、

田中電子工業株式会社、東京ガス株式会社、東芝エレベータ株式会社、東芝三菱電機産業システム株式会社、東燃ゼネラル石油株式会社、東プレ株式会社、東北交通機械株式会社、東北電力株式会社東北特殊鋼株式会社、東洋インキSCホールディングス株式会社、東レ株式会社、戸田建設株式会社、株式会社トノックス、株式会社中里工務店、ニッカウヰスキー株式会社 仙台工場、日本電子株式会社、日本電設工業株式会社、日本ファインセラミックス株式会社、株式会社日立ビルシステム、富士ゼロックス東京株式会社、フジテック株式会社、株式会社舞浜ビルメンテナンス、株式会社牧野フライス製作所、三井住友建設株式会社、三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社、三菱重工業株式会社 汎用機・特車事業本部、三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、宮城ヤンマー株式会社、メタウォーター株式会社、株式会社ヤクルト本社富士裾野医薬品工場、矢崎総業株式会社、株式会社横河ブリッジホールディングス、株式会社リーブルテック

専攻科

株式会社IHI検査計測、株式会社泉パークタウンサービス、NECフィールディング株式会社、NOK株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、株式会社廣済堂、株式会社小松製作所小山工場、株式会社ジャムコ、セコム工業株式会社、相馬共同火力発電株式会社、株式会社竹中工務店、DMG森精機株式会社、テルモ株式会社、東京ガス株式会社、日本精工株式会社、日本ハム食品株式会社、日本鉄道電気設計株式会社、日本ビソー株式会社、株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ、東日本旅客鉄道株式会社、富士ゼロックス東京株式会社、株式会社富士通システムズ・イースト、株式会社富士通ディフェンスシステムエンジニアリング、富士電機株式会社、株式会社牧野フライス製作所、三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所、ヤマトシステム開発株式会社

進路指導と進路実績について 広瀬

平成26年度卒業・修了生の進路について

広瀬キャンパスキャリア支援室 室長 菅谷 純一

平成26年度の本校広瀬キャンパスの本科卒業生は95名で、51名が就職、44名が進学しました。専攻科修了生は36名で、22名が就職、11名が進学でした(その他3名)。広瀬キャンパスへの求人企業数は最終的には512社であり、平成25年度の480社より30社ほど増加しました。

広瀬キャンパスキャリア支援室では、2月にコミュニケーション力アップ講座と模擬面接講座を3月末にはSPI対策講座を開催するなど、合格率の向上に努めました。また、合同企業説明会は1月に市内で2回、2月末に名取キャンパスで1回開かれ、多数の学生が出席しました。3月末にはSPI対策講座を開催しました。これに応じて、学生は十分に自己分析および企業研究をすると共に積極的に就職活動を行いました。さらに、これに相まって今年度は世の中の景気に良い兆しがあったことも手伝って、ここ数年以上に良い結果を残し、本科では全員の進路が決定しました。

進学状況(平成26年度)

大学編入学等状況

岩手大学…1名、筑波大学…1名、千葉大学…1名、東京大学…2名、東京工業大学…2名、東京農工大学…1名、東北大学…1名、長岡技術科学大学…4名、豊橋技術科学大学…2名、仙台高等専門学校専攻科…29(3)名

合計…44(3)名

※()は内数で女子

大学院進学状況(専攻科)

東北大学大学院…6名、筑波大学大学院…3名、北陸先端科学技術大学院大学…1名、豊橋技術科学大学大学院…1名

合計…11名

就職状況(平成26年度)

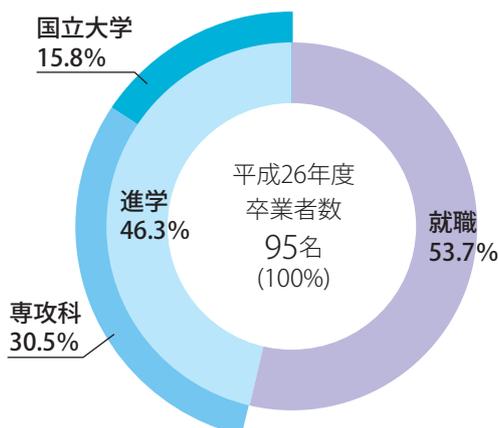
産業別就職状況

製造業…10(2)名、電気ガス熱水道業…8(1)名、情報通信業…21(7)名、運輸郵便業…1名、技術サービス業…10名、その他…1(1)名

合計…51(11)名

※()は内数で女子

学生ひとり当たり約12倍の求人倍率



就職先一覧(平成26年度)

準学士課程

(株)アルフ、NOK(株)、エックスサーバー(株)、NECフィールディング(株)、(株)NHKアイテック、(株)NTT-ME、NTTコム ソリューション & エンジニアリング(株)、大阪ガス(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、(株)協和エクシオ、(株)KSF、KDDIエンジニアリング(株)、(株)コナミデジタルエンタテインメント、(株)システムレーテ、CTCシステムマネジメント(株)、(株)平プロモート、中部電力(株)、(株)TTK、(株)DMM.com、(株)TBSテックス、(株)東海理化電機製作所、東京ガス(株)、東京電力(株)、東芝エレベータ(株)、東社シーテック(株)、東北電力(株)、東北放送(株)、トヨタ自動車東日本(株)、東日本旅客鉄道(株)、バイスリープロジェクト(株)、(株)ハイマックス、パナソニックシステムネットワークス(株)、日立アロカメディカル(株)、日立交通テクノロジー(株)、(株)日立情報通信エンジニアリング、富士重工業(株)、(株)プロトリオス、(株)ミライト、(株)モバイルファクトリー、リコーテクノシステムズ(株)、防衛省・航空自衛隊

専攻科

アイシン・コムクルーズ(株)、(株)アルプス技研、NHK、(株)NHKアイテック、NECソリューションイノベータ(株)、NECネットズエスアイ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、応用リソースマネジメント(株)、(株)サイゼリヤ、(株)中央エンジニアリング、ディーピーティー(株)、東京エレクトロン宮城(株)、東北インテリジェント通信(株)、(株)日立アドバンスシステムズ、(株)富士通エフサス、(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ、マネージメントサービス(株)、(株)ミライト、三菱電機ビルテクノサービス(株)、(株)メンバーズ

新任教員紹介

三機関連携：特命助教・校長補佐 武田 正則



今年度、8月から次世代型教育推進室のアクティブラーニング担当として着任しました武田です。

出身は山形で、話題に事欠かない仙山線で、毎日通勤しています。特に、先日の「倒木8時間閉じ込め事故」では、本校生の熱心な車中ボランティア活動に感動しました。さらに、着任しての驚きは、大きな敷地と学寮、そして学生のやる気です。放課後も教室で仲間と勉強している姿を見て感動しています。

さて、私の所属する「次世代型教育推進室」は、「全ての学生の能力を十分に伸ばす」ことを念頭に置いた、アクティブラーニング(能動的な学び)の推進です。

私が、この学びに興味を持ったのは、JICA専門家として「ジャマイカ国職業教育改善プロジェクト」に従事した経験にあります。参加・参画型授業を学校教育の中に取り入れられないかと考え、20年以上、研鑽を積んできました。これらの経験を活かし、本校生が主体的、能動的な学びが実現できるように頑張っていきます。

着任して数か月がたちますが、高校との違いや、高専のおかれている立場なども十分理解できるようになりました。皆さんの力になれるように、精一杯努力していきますので、よろしくお願いいたします。

建築デザイン学科 准教授 相模 誓雄



昨年10月1日に建築デザイン学科に着任いたしました。専門は建築歴史・意匠という建築学の一分野で、日本建築史に関する研究を行っております。博士論文で取り上げた江戸時代の諸藩の租税及び物流施設に関する研究課題は、東北地方から始まり、国から資金的援助を得て北陸地方、そして山陰地方へと拡大。日本文化の多様性、建築における先人の技術に関して得た新たな知見を学会の論文集に発表しております。

一方、私が所属し学外での主な活動の拠点としている日本建築学会東北支部歴史・意匠部会では、東日本大震災後の宮城県などの歴史的建築の被災調査及び復旧支援、宮城県における近代和風建築の遺構把握と特徴の解明など、共同研究活動にも忙しい日々を送っております。

教育研究機関での勤務は長く、県内の大学に17年余り勤めておりました。また、夜学で学びながら実業学校の実習助手をしていたこともあり、高等教育の現場の新鮮な空気を感じております。仙台高専では、学生の歴史・文化・環境を理解する能力、日本語・コミュニケーション基礎力、設計・企画・デザインする能力の向上に力を注いでまいりたいと考えております。

学生の活動状況について 広瀬

ロボコン全国大会に出場

広瀬キャンパス科学部 知能エレクトロニクス工学科3年 青木 祐人

私たち科学部は今年度のロボットコンテスト全国大会に出場しました。ロボットコンテストは毎年4月に競技課題が出され、その課題にのっとったロボットで競い合います。今年度の課題は、そばの蒸籠を目的地まで配達し、配達した蒸籠の数を競うものでした。蒸籠は横から掴むことはできず、下からの支えによって障害物を超えなければなりません。私たちは蒸籠を支える方法として風の力を採用しました。4方向から蒸籠を囲うように風をあて、傾いた蒸籠を押し返すことでバランスを保ちます。この方法は他高専には見られない独創的なアイデアとして評価され、たくさんの賞を受賞しました。ですが、今大会を通して、私たちのロボットは時間内に試合をこなせることが1度もできませんでした。たくさんの賞を受賞できはしましたが、非常に悔しい思いをしました。この悔しさをばねに、来年度は必ず自分たちが納得できる結果を残せるように日々精進していきます。



3Dプリンタ・アイデアコンテストで特別賞を受賞

12月19日(木)、仙台アエルを会場に高専機構主催で「3Dプリンタ・アイデアコンテスト」が開催されました。

最近話題の、「3Dプリンタ」は「デジタルデータから直接様々な造形物を作り出す」という新たな“付加製造”技術として注目されています。この技術は(1)精密な工作機械としての発展可能性を有し、(2)個人も含めた幅広い主体のものづくりツールとしての発展可能性も高く、「ものづくり」の新生面を開く技術として期待されています。特に、デザインと製造技術の双方を理解し、3DのCAD/CAM及びプリンタによる造形などデジタル・マニファクチャリング技術を身に付けた人材が必要不可欠とされています。

今回、デジタル・マニファクチャリング技術の浸透及び地域で貢献できるアイデア豊かなものづくりの人材育成の一環として、地域企業と高等専門学校が連携し、3Dプリンタのものづくり教育のツールとしての普及を目的に本コンテストを開催することになりました。

今年が第1回の開催で、全国の高専から書類審査を通過した21チームが参加し、本校からも名取・広瀬から各1チームが出場、プレゼンテーションと展示で自らのアイデアを披露しました。

審査の結果、知能エレクトロニクス工学科4年の及川右貴君の作品「Swallowtail Butterfly Stand」が特別賞を受賞しました。この作品は、知能エレクトロニクス工学科4年の授業「電子機器設計基礎」のミニコンテストで設計した「スマートフォン用スタンド」をもとに、着色などの後処理を施した作品です。アゲハチョウの紋様をリアルに再現した緻密な設計と、後処理による木工のような質感を実現することで、3D-CADと3Dプリンタの新たな可能性を示すことができました。



パソコン甲子園2014本選で全国第9位と健闘

11月8日(土)・9日(日)に会津大学で開催された「パソコン甲子園2014」本選のプログラミング部門において、広瀬キャンパス情報システム工学科3年の中村聡邦君と佐藤葉介君(チーム名:進捗どうでしょう)が全国第9位と健闘しました。

本選プログラミング部門は、9月に全国622チーム(本校から4チーム)が参加して行われた予選を突破した24チームが参加して行われ、2人1チームで1台のパソコンを使い、制限時間内に問題に対する解答プログラムを作成し、得点形式で競いました。

今回は残念ながら本選に進むことができませんでしたが、予選では、山野優真君(情報システム工学科2年)・相沢幸翼君(情報システム工学科2年)(チーム名:CEO)、田中大樹君(情報システム工学科1年)・小野寺幸仁君(情報ネットワーク工学科1年)(チーム名:田中)、渡邊虎太郎君(情報システム工学科1年)・高野凱貴君(情報システム工学科1年)(チーム名:Sein)も2年生以下のチームながら健闘しました。



学生の活動状況について 名取

ラグビー全国大会

名取キャンパスラグビー部 主将 機械システム工学科5年 末永 壘

平成27年1月9日、2年連続12回目の全国優勝を果たすことができました。振り返ると今年一年は新しいこと、楽しいこと、キツイこと、沢山行って来ました。先生の厳しいご指導から始まり、初めは苦戦したトレーニングの1つ綱登り、昔話のような盛り方のご飯や100%の力を出し切るため大声を出しながら行ったウエイトトレーニング、鼓舞し合った体カトレーニング、全ては自分たちより強い相手に負けないために行いました。



キツイ練習も仲間と声を掛け合いながら最後までやり切りました。「最強」よりも「最高」のチームを作るために1年間活動しました。そして最高の仲間と最高の結果を残すことができ、とても嬉しく思います。このような最高の仲間との出会いに感謝しています。また、何より僕たちがフィールドでのびのびとラグビーが出来るようにサポートして下さったOB会、ラグビー後援会、学校関係者、保護者の皆様、その他ご支援ご声援を頂いた全ての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



仙台高等専門学校『高専祭』が開催されました

11月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり、名取・広瀬キャンパスを会場に「第6回高専祭」が開催されました。今年は両キャンパス共通のテーマとして『Change for ChaLLEnge』を掲げ、各キャンパス様々な趣向を凝らした企画を実施しました。

平成26年度は旧宮城高専と旧仙台電波高専との高度化再編によって設置された仙台高専が完成を迎える節目の年度でもあり、これを機に「学生もいろいろなこと挑戦し、積極的に変化していこう」という意味をこのテーマに込めています。また、ChaLLEngeの中の「LLE」は「Look-Listen-Enjoy」の三つの単語の頭文字であり、学生が「見て、聞いて、楽しむ」ことによって、より良い方向へ変化しようという強い意志と、来場者が「見て、聞いて、楽しめる」という高専祭の特徴を表現しています。

初日から雨に見舞われた高専祭でしたが、2日目はお天気に恵まれ、2日間無事に開催することができました。名取キャンパスでは、ステージ企画に東北大学生を中心として仙台で活躍中の「ニホンジンプロジェクト」さんをお迎えし、歌と踊りを披露いただきました。

来場者数は、両キャンパス合わせて11月1日(土)が約1,500名、2日(日)が約2,000名、合計約3,500名でした。たくさんの皆様のご来場ありがとうございました。



東北地区高専英語スピーチコンテストで本校学生2名が入賞

10月4日(土)に八戸高専を会場として、「第8回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト」が開催され、本校からは糟谷瑛さん(機械システム工学科5年)、吉成未菜里さん(情報システム工学科4年)、若生倫太郎さん(情報システム工学科2年)が出場しました。コンテストには東北6高専7キャンパスの代表9名が集まり、様々なテーマで英語のスピーチを行いました。

本校代表3名のスピーチのタイトルは以下のとおりです。

糟谷瑛さん: "What I Learned through Entrance Examinations"

吉成未菜里さん: "Your Guide toward Your Dream"

若生倫太郎さん: "My Opinion about Bullying"

3人とも練り上げた英文原稿を練習でしっかりと自分のものとして、観客とアイコンタクトをとりながら見事に自分の主張を訴えました。

日本人とネイティブスピーカーの2名の審査員による審査の結果、若生さんが第一位、福島高専の学生が第二位、吉成さんが第三位となりました。



糟谷さん



吉成さん



若生さん



参加者全員で記念撮影

卒業生・修了生の研究題目一覧

機械システム工学科

学生氏名	研究題目
相沢 祐希	小型ガソリンエンジン燃費競技車の制作
浅野 峻太	60度ダイスによる竹粉末押し出し
穴澤 渉	教育用電子楽器キットの開発
阿部 将希	小型燃料電池車のための水素吸蔵合金の性能調査
一柳 諒真	物体の繰り返し衝突における力の解析
伊保内 利城	60度ダイスによる竹粉末押し出し
内田 直宏	自走型模型スターリングエンジンの改良と評価
小野寺 樹	独立二輪駆動台車を用いた開扉動作に関する基礎研究
糟谷 瑛	電気を使わない冷却装置 Zeer Pot の内部構造の影響と計算モデルに関する研究
加茂 京平	PIV を用いた回転球の後流解析
菅野 怜	扇型風力発電装置の開発
菊地 洋平	市販品時計と3D プリントを用いた教材開発
今野 悠	回転円筒内の粉粒体の長時間挙動
齋藤 広季	瞳孔径の収縮傾向に注目した年齢推定
齋藤 雄太	物体の繰り返し衝突における力の解析
佐々木 秀弥	デモンストレーション用ホバ盤の設計・改良
笹山 眞一	不正アクセスソフトウェアの挙動と対策
佐藤 一輝	物体の繰り返し衝突における力の解析
佐藤 圭悟	閉鎖環境における監視カメラの行動検知
佐藤 元	回転球が放出する水滴のモード
東海林 新樹	虹彩間距離を用いた視力低下システムの開発
末永 望	金属と樹脂の接合のためのレーザーによる金属表面処理
菅井 佑馬	自走型模型スターリングエンジンの改良と評価
菅原 宗一郎	コンピュータウィルスの挙動と対策
菅原 樹	竹粉と木粉の混合粉末を用いたホットプレス成形体の引張強度
菅原 啓	小型燃料電池車のための水素吸蔵合金の性能調査
鈴木 雄己	竹粉と木粉の混合粉末を用いたホットプレス成形体の引張強度
添野 文哉	電気を使わない冷却装置 Zeer Pot の内部構造の影響と計算モデルに関する研究
高橋 亮介	小型ガソリンエンジン燃費競技車の制作
沼田 大祐	吹出し型風洞装置の製作と評価
長谷 涼太	金属と樹脂のハイブリッド材料の長期安定性評価に関する調査
長谷川 和正	小型ガソリンエンジン燃費競技車の制作
針生 怜央	金属と樹脂の接合のためのレーザーによる金属表面処理
日野 勇輔	テンプレートマッチングによる道路標識の認識
プリヤ	双腕 2 リンクアームを用いた把持機構に関する基礎研究
三浦 亮太	独立二輪駆動台車を用いた開扉動作に関する基礎研究
三輪 海斗	赤外光を使用した年代別瞳孔の収縮傾向
本宿 雄也	マグナス効果の測定
柳橋 和毅	回転円筒内の粉粒体の長時間挙動
谷津田 竜弥	双腕 2 リンクアームを用いた把持機構に関する基礎研究
渡邊 将伍	市販品時計と3D プリントを用いた教材開発
渡辺 雅大	自動潤滑吐出装置の作成と評価

電気システム工学科

学生氏名	研究題目
浅野 達哉	ZnO 薄膜における抵抗の温度依存性と不純物準位について
有見 芳敬	組み込みシステムを用いた歩行者用信号機の検出と検討
五十嵐 拓郎	RF スパッタ法による ZnO 半導体薄膜の作製～X線回折と結晶構造について～
石山 百合香	HOG 特徴量と SVM による物体識別器の作成
伊藤 敦弥	充電式心臓ペースメーカー用非接触電力伝送における方形波の充電状況推定への影響
氏家 翼	レーザーと微粒子による樹脂基板への積層キャパシタの作製
大泉 健太郎	高品位分光イメージング用液晶波長可変フィルタの特性向上に関する研究～温度依存性によるピーク波長への影響～
大友 佳嗣	磁界共鳴方式を用いた非接触電力伝送に向けた基礎的検討
奥秋 佑太	LED 式歩行者用信号機の点灯状況判別手法の開発
折原 孝典	レーザーと微粒子によるセラミックス基板への銅電極膜の作製
上岡 勇介	和声進行とリズムパターンによる容易な旋律の創作を行うソフトウェアの制作
川畑 美貴	周波数解析システムの開発と脳波測定実験
齋田 拓也	充電式心臓ペースメーカー用非接触電力伝送における金属板の充電状況推定への影響
小林 拓史	歩行動作における歩行周期の解析に関する研究
今野 巧也	ノイズキャンセル技術を用いた防音装置の製作
今野 真志	ピコ水力発電システムの大容量化に向けた基礎検討～水車構造～
佐々木 豪也	純 Ne 及び Ne - N ₂ 混合気体のプラズマにおけるプラズマパラメータの評価
佐々木 巧	小口径 Ne-N ₂ 混合ガス、純 Ne ガスグロー放電における電界及びガス温度特性
佐々木 真哉	楽曲における周波数解析とフィルタリング
佐竹 優貴	不可視情報の光学的識別における評価指標に関する研究
佐藤 功汰	ピコ水力発電システムの大容量化に向けた基礎検討～ハイブリッド水車～
佐藤 雅広	RF スパッタ法による ZnO を用いた半導体薄膜の作製～成長速度について～
佐藤 諒	ピコ水力発電機の研究
穴戸 仁哉	再構成可能なネットワーク実験システムにおける設定データ生成プログラムの開発
下塚 翔矢	再構成可能なネットワーク実験システムにおけるルータ処理並列化の研究
高橋 遼	液晶波長可変フィルタ用光学素子の高精度解析手法に関する研究
竹澤 志保	放送電波を利用したエネルギーハーベスティングに関する研究
土田 大樹	ネットワークシミュレータ ns-3 を用いたエミュレーション機能の検証
永沢 宏介	紫外線 LED の EL 温度依存性について
那須 隆志	Raspberry pi を用いた倒立振りモデルの作製研究
南條 颯斗	拡張現実のための聴覚デバイスの製作
二瓶 貴裕	動作計測システムの医療現場への応用に関する研究
芳賀沼 彰	放電基礎パラメータの電子エネルギー分布依存性
村主 多輝	不可視情報を用いた光学的識別システムの基礎構築に関する研究
森田 望夢	音形補正支援デジタルチューニングシステムの提案
我妻 良哉	電磁誘導方式によるワイヤレス給電の高周波化
渡部 唯人	シーケンス制御用教材に関する研究

卒業生・修了生の研究題目一覧

マテリアル環境工学科

学生氏名	研究題目
相澤 花南	リン酸三カルウム (K ₃ PO ₄) を固体触媒とするバイオディーゼルの合成と触媒溶出成分の評価
阿部 公海	TBBPA と Bi の混合試料の加熱分解時における Bi の化合物形態の解析
五百川 響	還元雰囲気炉の作製とそれによる残光性蛍光体焼成
磯崎 崇志	化学反応を伴う物質移動問題への直交選点法への応用
板乗 勝太	Mg ₉₇ Zn _{0.7} Al _{0.3} Gd ₂ 合金における LPSO 相の熱的安定性
伊東 優作	放電プラズマ焼結法による GSGG:Ce:Hf 残光性蛍光体の作製
井上 達仁	溶解性液晶高分子薄膜を用いた配向膜の特性
猪股 大起	コンパージミルによる硬質合金 /MnS 複合材の開発
小野 亜由葉	レーザー援用微粒子ジェット噴射法による絶縁膜形成技術の開発
小野寺 雄稀	Mg-Al-Y 合金における LPSO 構造の微視的観察
加藤 孝基	Mg-Al-Gd 系合金における LPSO 相の形成条件
亀井 雄登	枯草菌の密集分岐状コロニー形成の環境 pH 依存性
後藤 俊太	Ni-Co-Mn-Al メタ磁性形状記憶合金のマルテンサイト変態挙動と磁気的性質
小林 秀樹	Fe-Ni 微粉末のマルテンサイトに関する研究
佐久間 大知	温室効果ガスを対象とする LIDAR スペクトル計測
佐々木 彩乃	クロム添加コバルト合金の窒化
佐藤 直生	バイオディーゼルの固体触媒法における有効な触媒の探索と結晶水の有無による影響の調査
佐藤 文哉	GAGG:Ce の残光性
嶋田 雅人	実用合金鋼の表面改質における超音波探傷法を用いた健全性評価法の開発
庄子 和哉	Mg ₉₇ Zn _{1-x} Al _x Gd ₂ 鑄造合金における LPSO 構造
鈴木 雄大	酵素反応機構の確率モデルによる推定に関する研究
高玉 秀之	Fe-Cr-Co 合金における組織と硬さに及ぼす時効熱処理の影響
高野 魁人	摺動摩擦試験用ダイナモ装置の開発と Al-Fe-Si 粉末強化 Al 基複合材料の摺動特性評価
高橋 孝征	下水汚泥に含まれる金属元素の微量分析
高橋 裕貴	TBBPA と Sn の混合試料の加熱分解時における Sn の化合物形態の解析
高橋 光生	表面水分の少ない固体培地上の枯草菌の運動性とコロニーパターンの環境 pH 依存性
立谷 優羽	極低温液体中のアルミニウム合金の残留応力に関する考察
寺島 幸之介	表面処理を施した SUS304 の窒化耐性評価実験
富樫 真平	ブルー相発現のための温度制御ユニットの改良
永井 亮	銅鋳型急冷法による Nd-Fe-B 磁石合金の作製と評価
成田 有梨香	Co ポリオキシメタレート粒子の合成と光照射による水素生成
沼倉 寛人	連続速度格子気体法への溶質拡散モデルの組み込み
船水 昭宏	Mn-Ga-Cu 合金における三元化合物の磁気特性
松澤 俊孝	微細鉄添加マグネシウム合金の水素吸蔵特性
松房 恵美	光触媒 WO ₃ /g-C ₃ N ₄ 複合粒子の合成および微細化とメタノールの人工光合成
山下 茉以	環境データのフィルタリングに関する基礎的研究
山田 真弓	遊星ボールミルにより作製した Al/CNT 複合体の微細組織観察
山村 美来	Co ₅₀ Nb _(50-x) Sn _x ホイスラー合金のマルテンサイト変態温度および結晶構造の組成依存性
渡部 翔	2 元系透明導電膜を用いたフレキシブル TN 結晶セルの試作

材料工学科

学生氏名	研究題目
栗原 芙由子	物質移動問題の解析への直交選点法への応用
志賀 啓哉	β-FeSi ₂ 微粉末を用いた熱電変換焼結体作製のための焼結条件の検討
高橋 愛	低角 XRD 法を用いた Mg 系合金の LPSO 相同定

建築デザイン学科 (卒業論文)

学生氏名	研究題目
相澤 和嘉	鉄骨置屋根構造の損傷メカニズムに関する検討 その1 損傷メカニズムの論理的分析
阿部 航也	アイトラッカーを用いたサステナブル建築の外観写真の印象評価
岩佐 優	公共施設の建築検討時における住民参加のあり方
岩原 春香	プレファブ内の温熱空気環境に関する研究 その6 冷房時の室内温熱環境および消費電力量に関する実測
大内 耀介	高強度高靱性セメント複合材料の爆裂特性に関する実験的研究
大坂 進太郎	骨材粒径の異なる炭酸化 POC の透水性およびアルカリ溶出量に関する実験的研究
大畑 順平	災後における公立文化施設の再建状況に関する研究
大畑 瑛悠	仮設集会所における室内温熱環境に関する研究 その1 春季から夏季の室内温熱環境調査
小野田 有里	鉄骨部材製作上における問題点
小野寺 謙	住まい方と外出行動を視点とした集落の実態～福島県川俣町小島集落を事例として～
金澤 秀悟	免震層の過大変位制御に関する解析検討
金子 紗智	住宅における部位別開口特性の測定法に関する実験的研究
菊池 拓人	仮設集会所における室内温熱環境に関する研究 その1 春季から夏季の室内温熱環境調査
岸田 龍司	景観構成要素をまとまりとみた場合の街路の特徴
草野 慶太	気密性に基づく部位別開口特性の現場測定法の開発 その2 流れの特性が開口特性に与える影響の検討
工藤 めい	応力場を考慮した構造体コンクリートの耐久性照査システムの構築
小泉 優稀	混合材の相違がケイ酸塩系表面含浸特性に及ぼす影響
齋藤 浩志	集落再生における小水力発電の現状と実践的課題の整理
佐々木 葵	経年変化と改修事例の調査を軸とした公共ホールの長期マスタープランの検討
佐藤 幸司	慣性質量液流ダンパーの開発 その2 ダンパーを有するフレームの振動応答解析
佐藤 峻	ArtificialBeeColonyAlgorithm によるトラスの構造最適化
佐藤 春香	避難行動シミュレーションのための人工空間のモデル化とアルゴリズム構築
佐藤 鈴	住宅における部位別開口特性の測定法に関する実験的研究
下川原 恵子	鉄骨置屋根構造の損傷メカニズムに関する検討 その3 Frame-D を用いた 3D 解析
庄子 拓也	木材の縦圧縮試験における寸法効果
鈴木 翔太	木材の縦圧縮試験における寸法効果
仙石 祐輝	仙台高専名取キャンパスにおける人々の「居方」～場所利用の実態調査と可能性の検討～
立石 龍太	気密性に基づく部位別開口特性の現場測定法の開発 その2 流れの特性が開口特性に与える影響の検討
千葉 佳奈瑛	東北地方の屋根防水工法の現状調査
中村 友彌	慣性質量液流ダンパーの開発 その1 ダンパーの履歴モデルに関する検討
府金 由樹	DifferentialEvolution による梁の構造最適化
藤原 菜子	住宅用壁紙における好ましさ印象とニーズの分析
星 尚之	自動車利用意識からみた自動車依存を脱却するための生活交通の検討
目黒 里香	地域住民の属性別にみる印象と期待
持館 里美	プレファブ内の温熱空気環境に関する研究 その6 冷房時の室内温熱環境および消費電力量に関する実測
八巻 里紗	飲食店室内空間の好ましさや印象評価の関係に関する検討
結城 拓郎	Is 値と DL を用いた学校被害調査を行った地点での耐震診断
吉田 健悟	東日本大震災における福島県内のミュージアムの被害状況と再開プロセス
渡辺 哲一朗	鉄骨置屋根構造の損傷メカニズムに関する検討 その2 ABAQUS を用いた 3D 解析

建築学科 (卒業論文)

学生氏名	研究題目
芳賀 祥子	過去の震災のプロセスと比較した福島県中山間地域における集落再生課題について
油井 慧太	津波被害を受けたコンクリート構造体の塩分浸透特性についての基礎的検討

卒業生・修了生の研究題目一覧

建築デザイン学科 (卒業設計)

学生氏名	研究題目
相澤 和嘉	災害公営住宅案
阿部 航也	人が集うダイケアセンター
岩佐 優	MUSIC TERMINAL
岩原 春香	海上の120年
大内 耀介	利府町図書館の改築および周辺施設の合併計画
大坂 進太郎	公園内の温室
大畑 順平	故郷を撮る
大畑 瑛悠	都市のオアシスとしての緑と一体の図書館
小野田 有里	子供が集まる空間
小野寺 謙	再樹
金澤 秀悟	福島駅前チルドレンズミュージアム
金子 紗智	集落の結婚式
菊池 拓人	寄り道
岸田 龍司	住宅クラスターから成るまち
草野 慶太	境界をなくす植物工場
工藤 めい	With the History
小泉 優稀	農業体験宿泊施設
齋藤 浩志	岩沼のグループハウス「つながりの家」
佐々木 葵	新しい美術館のかたち
佐藤 幸司	河北町中心市街地活性化計画
佐藤 峻	ミュージアム
佐藤 春香	蔵のまち村田
佐藤 鈴	人と歴史を繋ぐ
下川原 恵子	名取市図書館新築計画
庄子 拓也	自然を感じる作並の宿
鈴木 翔太	天童市将棋資料館移転計画
仙石 祐輝	自然の中の保育施設
立石 龍太	各学年で交流がある小中学一貫校
千葉 佳奈瑛	サービス付き高齢者向け住宅
中村 友彌	地域に開かれた小学校
府金 由樹	宗教と建築
藤原 菜子	まるい水槽
星 尚之	Re:turn
目黒 里香	杜の卵
持舘 里美	うかぶまち
八巻 里紗	世代間の支え合い
結城 拓郎	住宅団地
吉田 健悟	Share
渡辺 哲一朗	B&G 建替え計画

建築学科 (卒業設計)

学生氏名	研究題目
芳賀 祥子	みんながいるところ
油井 慧太	福島駅再開発

生産システムデザイン工学専攻

(生産システム工学コース)

学生氏名	研究題目
穴澤 憲了	動力伝達構造を有する機械装置系の振動抑制制御・付加速度センサを用いたセンサベース制御の位置制御ループの検証
上田 良次	瞳孔の大きさに注目した顔の向きにロバストな性別判定
大宮 啓太	Fe-Mo-Co 合金の微細組織と硬さにおよぼす熱処理の影響
加藤 大貴	レーザー援用微粒子ジェット法を用いた積層キャパシタの高速形成技術
管野 康平	連続速度格子気体法を用いた物質移動モデルの開発
金 知優	簡易双腕ロボットによる操り動作のためのビジュアルフィードバックに関する研究
斉藤 大夢	短距離走の加速局面における前傾角度の最適化
櫻井 香織	キャビティが材料の損傷に及ぼす影響に関する実験的考察
佐藤 卓	樹脂と金属の接合強度の測定方法の開発
佐藤 裕介	燃焼合成法で作製した Al 系金属間化合物を強化材とする複合材料の評価
澁谷 臨	Mg-(Zn,Al)-Gd 鋳造合金における LPSO 相の発現メカニズム
鈴木 正人	塗料の遮熱効果に及ぼす充填材の影響
高橋 一生	初心者のための管楽器ピッチ補正支援システムの構築
高橋 竜也	レーザー援用微粒子ジェット噴射埋め込み法による回路形成技術の開発
達久 将成	確率シミュレーションを用いた反応機構の推定法の構築
照井 美和	木質粉末を用いたプレス成形体の強度特性
徳富 尚志	Fullerene 誘導体を用いた HDPE-Fullerene 複合材料に関する基礎的検討
橋本 昂樹	非接触充電式心臓ペースメーカー用携帯型充電器の開発
早木 光流	粒子径の異なる Mg 粉末を用いて作製した Mg/CNT 複合粒子の形態と水素吸蔵特性
半沢 文也	金属と樹脂の接合強度測定法の数値解析
水戸 智世	臭素系難燃剤加熱分解時に伴う臭素系有機化合物の発生挙動に関する基礎的研究
名生 崇悦	逆磁歪効果を利用した磁気デバイスの研究
山田 彩聖	EDLC を用いた急速・大電力受給システムに関する研究
渡辺 匠	太陽光を利用する小型海水淡水化装置の開発
渡辺 直紀	非接触充電式ペースメーカーの充電制御に関する研究
渡邊 亮	レーザー援用微粒子ジェット噴射埋込法における銅微粒子再利用技術

(建築デザイン学コース)

学生氏名	研究題目
佐藤 行多朗	仮設集会所における室内温熱環境に関する研究-春季から冬季の室内温熱環境調査-
佐藤 裕	繊維補強セメント系材料の基礎物性および耐久性評価に関する検討
千葉 樹	部位別の気密性能測定に基づく直列配置の開口特性結合・分離式の提案及び実験的検証
千葉 大	仙台高等専門学校におけるキャンパス整備に関する実践的研究
永井 一磨	鉄骨置屋根体育館の地震被害に関する解析的研究
本多 祥平	仮設住宅における温熱環境改善のための計測・制御システムの開発・演習時の室内温熱環境および消費電力に関する実測・

(情報デザイン学コース)

学生氏名	研究題目
相原 泉	拡張現実感を利用したアート作品の制作及び提案
石山 ともみ	指示棒による描画・操作を用いたプレゼンテーション
北里 愛莉	形状情報と色情報を用いた屋外画像からの対象領域抽出法に関する研究
沓掛 亜斗武	複数の指向性マイクロホンを用いた SS 法による音源分離法に関する研究
小林 敬	類似度と感情極性を用いた語句検索
今野 志穂	統計的分析に基づく「高専女子学生に向けた学習動機付け」に関する研究
齋藤 峻	Differential Evolution による 1 次元 Burgers 方程式の Reynolds 数同定の数値実験
竹林 晴美	ヘッドフォン音楽聴取時の呼びかけに反応しやすい提示方向の検討
根本 康平	一瞬で切り替えた顔の歪み効果における音の影響
眞木 栞	再構成可能なネットワーク実験システムの構築に関する研究

卒業生・修了生の研究題目一覧

知能エレクトロニクス工学科

学生氏名	研究題目
青山 修也	ブロック状光素子を用いた透過率の入射角依存性測定系の高精度化に関する研究
飯川 靖之	言語聴覚士のためのリハビリアプリケーションの開発とその改良
石川 隆世	緑色 LED 光源の植物への効果
石橋 幹弥	渦流探傷検査システムの開発
板垣 勝吾	総輪駆動型エコラン競技用電気自動車の開発
上田 尚人	Project of Health Informatics Laboratory
梅津 千安希	腸内細菌検査におけるスクリーニングの自動化に関する検討
奥村 知也	ジェスチャー認識による講義映像収録システムに関する研究
加藤 慎之祐	RoboCup Soccer 小型ロボットリーグ競技用ロボットに関する研究
菊池 彩愛	LabVIEW ベースの打音法非破壊検査システムの検討
熊谷 祐稀	高出力 LD の光音響効果による金属棒の欠陥検出
後藤 光希	Web アプリケーションを用いた教育支援システムの開発 - 提出物管理システム -
佐久間 諒	GNSS 測位に基づく自律走行車の開発
佐々木 壱哉	半導体と金ナノ構造の複合構造における光学特性に関する研究
佐々木 俊樹	Experiment of Near-Fields Microwave Microscopy for metal plate
佐々木 遼	失語症患者のためのリハビリアプリケーション開発
佐藤 太亮	カビ検出を目的としたデジタルホログラフィにおける画像処理の検討
三部 凌太郎	熱拡散による Cu 添加酸化亜鉛薄膜の作製に関する研究
志田 共晶	Study of Near-field Microwave Microscopy
篠田 伊吹	スクリーン回転方式による 3D 表示に関する検討
菅澤 亮太	熱酸化による酸化亜鉛薄膜の作製に関する研究
高橋 亮太	光ファイバ間に設けられた空隙を利用する屈折率測定装置の試作
留場 晴樹	深度センサを用いた FDTD 数値モデル構築における 3 次元計測の精度検討
中沢 拓未	高出力 LD の光音響効果によるボルトの緩みの検知
中島 誠人	ニューラルネットワークの日別最大電力需要予測への応用
古川 和貴	移動型ロボットを用いたテレグジスタンスに関する研究
松本 恒一	超小型電気自動車用回生システムの高効率化の試み
三浦 圭介	ニューラルネットワークの組合せ最適化問題への応用および能力の検討
三浦 雄人	酸化物ナノ結晶間の低温接合方法に関する研究
村上 来	Web アプリケーションを用いた教育支援システムの開発 - 電子メールを用いた締切連絡システム -
渡辺 舞子	言語聴覚士のためのリハビリアプリケーションの開発と環境整備

情報システム工学科

学生氏名	研究題目
阿部 万梨花	拡張現実感に基づいたスタンプラリーシステムの開発
遠藤 昂	ディープラーニングにおける簡易事前学習法の検討
遠藤 駿	形態素解析を用いたメールの分類に関する検討
太田 恭平	MS PowerPointによる重度肢体不自由児向け学習ソフト制作支援
大瀧 貴史	t-J model における composite operator の厳密対角化による解析
大沼 峻徳	多層神経回路網の恒等写像学習における特徴抽出メカニズムの調査
小笠原 新	HTML5による重度肢体不自由児向けスイッチ教材ソフトとオフライン実行システムの開発
加藤 航大	小段差乗り越え機能を備えた電動車いすの開発-変形機構の開発-
菅野 涼香	屋内での限定範囲における位置推定に関する研究
神原 尚大	拡張現実による生花作成システムの構築
願法 美希	教育支援動画配信システムの復旧・運用
菊地 翔太	地域貢献における取り組みと支援について
菊池 雄太郎	Model Driven Development -Long Term Internship HMUAS-
郡司 翔太	NI ELVISアドオンボードを用いた組み込みシステム教材の開発
児玉 雅明	HTML5による重度肢体不自由児向けスイッチ教材ソフトとWebシステムの開発
後藤 雅裕	ゲーミフィケーション導入によるWebシステム開発の有効性と課題の検討-アンケートシステムの構築-
今野 裕太	P2P型安否共有システムにおける複製周期の検討
佐竹 佑規	ネール点近傍におけるフィッシャーの関係式の再検証
杉山 幹太	Max-SATソルバーを用いた単語帳作成手法の提案
関 風稀	オンライン児童音楽教育システム開発におけるCI環境の構築
園部 達也	災害時情報共有システムにおける自動交渉を用いた効用決定手法に関する研究
高橋 匠	KinectのMoCap測定範囲の拡大に関する研究
武田 優花	4次元正多胞体のりんごの皮むき展開-正120胞体の場合-
橋 健陽	自治体を跨った防災情報提供システムの開発
玉置 彩季	ゲーミフィケーション導入によるWebシステム開発の有効性と課題の検討-Web上の教育システム開発-
千坂 優佑	形式手法による仕様の厳密化-高専プロコン競技部門の事例-
千葉 朝香	4次元正多胞体のりんごの皮むき展開-正24胞体の場合-
中村 烈	慣性ロータを用いた倒立振子の立位制御シミュレーション
七島 圭哉	スマートフォンを用いた行動データの収集に関する研究
堀池 昂平	ブラウザベースのネットワーク管理ツールの機能拡張
松森 誠行	Toy modelを用いたモジュラーネットワークの特性調査
三河 大暉	テーブルトップコミュニケーションに関する研究
水沢 海斗	小段差乗り越え機能を備えた電動車いすの開発-制御システムの開発-
三森 理司	児童対象メロディ創作アプリケーションシステムの開発
宮澤 寛巧	モデル検査におけるCプログラムの抽象化の改良と実装
村岡 功	汎用的LDAP情報管理システムに関する研究
矢作 裕太	強相関電子系における中性子散乱スペクトルの計算
我妻 佳奈実	小段差乗り越え機能を備えた電動車いすの開発-移動機構の開発-

卒業生・修了生の研究題目一覧

情報ネットワーク工学科

学生氏名	研究題目
穴澤 諒弥	内径 50 μ m 中空ファイバ用先端封止素子の製作
五十嵐 太紀	ミリ波ホーンアンテナ形 SBD 検出器の製作
伊藤 啓亮	マイコンからの電磁的情報漏えいに関する研究
遠藤 郁也	レーダリモートセンシングシステムによる種類の異なる目標の観測
小野 凌太	圧電フィルムを用いた多機能センサに関する研究
尾下 広樹	ウェブ認証画像の難読化に関する試み
蒲池 修武	情報漏えいをもたらす信号の取得と解析
狩野 弘太郎	RDBMS を用いた RADIUS アカウントの管理
菅野 貴晋	圧電フィルムを用いた水素ガスセンサに関する研究
古積 可菜	仙台高専広瀬エリア放送の運用と放送システム開発に関する研究
佐々木 恒輔	組み込みシステム開発環境の共有化システムの開発
佐々木 裕路	定点観測用 Android カメラアプリケーションの開発
菅原 大貴	タブレットによる呼吸インピーダンス解析システム
鈴木 暁士	無線電力伝送システムにおける整合回路付き整流回路の効率
高嶋 恭佑	自律動作ロボットへのコンピュータビジョンの活用
高橋 駿太	赤外レーザー複合光伝送用高強度中空ファイバの製作
高橋 英朗	ケーブルが情報漏えいをもたらす電磁波放射特性へ与える影響
高橋 典華	音のスペクトル解析と検討
高橋 優暉	RoboCupSoccer を題材とした自律型ロボットの集団行動制御
玉手 克弥	バスケットボールデータ管理システムの高機能化
原田 美幸	音声解析を用いた声楽支援のためのアプリケーション開発
松浦 星良	レーダリモートセンシングシステムによる海面の観測
真山 健大	Power Measurement of OFDM Signals - Report of International Internship Program
三浦 想太	位相限定相関法による指紋画像照合
宮本 祐志	内径 20 μ m 銀中空ファイバの製作に関する研究
渡邊 洋平	咳検出の研究支援データ管理システムと分析精度の向上

情報電子システム工学専攻

学生氏名	研究題目
赤羽 邦彦	多指向映像ディスプレイにおける問題点の解析および改善に関する研究
安孫子 隼人	グラフ理論総合的学習支援システムの利便性向上に関する研究
阿部 晋士	無線電力伝送技術におけるインピーダンス整合に関する研究
安部 充	発展型エージェントシステムに基づくユーザウェアエージェントに関する研究
伊藤 真也	共鳴的エネルギー移行過程を用いた高効率赤外熱源の開発
伊藤 祐麻	移動物体の個体識別と移動量測定に関する基礎研究
及川 勝貴	ITO/PEN フィルムを用いた透明-鏡面-黒色の状態に変化可能なフレキシブル・スマートウィンドウの作製と評価
奥田 光	機能分離神経回路網を用いた巡回セールスマン問題解法
加藤 瑞基	赤外レーザー光伝送用高強度中空ファイバに関する研究
木村 優太	4次元正多胞体のリンゴの皮むき展開とそのCG表現
黒澤 隆也	70GHz ~ 100GHz 帯の新しいホーンアンテナ形 SBD 検出器の開発
桑折 智大	液位センサを用いた X-Y ステージによる液面制御の検討
今野 海航	深度センサを用いた実環境 FDTD 数値モデルの構築
斎藤 有矢	RoboCup サッカーを題材にしたロボットの集団行動制御方法の開発
佐久間 悠	ニューラルネットワークを用いたマインスイーパー解法改良の一考察
櫻井 樹	光スイッチ用新規有機非線形光学材料の設計および解析
佐藤 辰耶	回生システムに用いるチョッパ回路高効率化に関する研究
佐藤 友昭	RBAC モデル検証支援システムの構築
佐藤 亮太	前コントロール媒質における電磁波の共振特性と局在について
須藤 涼介	光ファイバを用いた液体用光学特性測定装置における高次モードの影響に関する研究
添野 里衣子	モジュラーニューラルネットワークの状態遷移過程
曾根 大地	真菌の検出を目的としたデジタルホログラフィにおける画像処理に関する研究
高橋 綾	ものがたり創作支援システムにおけるユーザエクスペリエンスデザイン
高橋 出	多段入力を伴った階層型ニューラルネットワークの学習能力の検討
田中 竜之介	Jiles-Atherton ヒステリシスパラメータの温度依存性
千葉 習人	SAT/SMT ソルバの応用に関する研究
西戸 至	スマート市民農園システムの開発
堀川 徳行	Miratel Project における新しいナースコールシステムの設計
前田 一希	酸化亜鉛への過酸化水素処理に関する研究
松浦 崇	柔軟なユーザ通知機能を提供する通知基盤の開発
宮野 翔平	ネットワーク構成情報管理データベースを用いたネットワーク運用管理業務の支援
森 綜太	並置したスマートデバイスの間のインタラクションに関する研究
森谷 優大	『枕草子』可視化カード提示システムの評価
保田 竜也	腹部 X 線 CT 画像を用いた脊椎セグメンテーションによるランドマーク検出
渡邊 景太	セルオートマトンを用いた交通流解析モデルの構築と検討
渡辺 謙	聴覚刺激を用いた意思伝達支援 BCI システムの開発

研修旅行について

名取研修旅行

研修旅行in台湾

電気システム工学科 4年 館内 弘樹

私達電気システム工学科4年生は、11月9日から11月13日まで5日間に渡って台湾に研修旅行に行ってきました。私達の周りには、台湾製のパソコンや携帯電話がよくみられるように、台湾は電子工業の盛んな国であると考え、きっと勉強になるはずと期待していました。また、私にとって海外に行くのは初めての経験だったので、7月にパスポートを受け取った時から楽しみで楽しみでしかたありませんでした。

1日目午後、仙台空港から空路4時間にて台北へ。到着は夜でした。ホテルにチェックインしてさっそく近くの夜市(観光夜市: Night Market)へ出かけました。市街地の一角に祭りの出店のようなものが並んでいて、昔の日本に来たような懐かしい雰囲気思わず気分が高揚し、日本では見ないような食べ物をたくさん食べ、お腹を思いっきり壊して台湾旅行が始まりました。

2日目午前中、超高層ビル台北101へ。高速エレベーターで500mの高さまでわずか30秒で到達。すごい!と思いましたが、作ったのは東芝でした。午後には九分(Jiufen: 分の字はニンベンに分なのですが変換できないので...)を訪れました。九分はアニメ『千と千尋の神隠し』の舞台になった場所と言われ、夜になるとたくさんの提灯に火が灯され、これもまた今の日本では見られないような懐かしくも幻想的で美しい光景に見とれ、感動しました。



台北101にて

広瀬研修旅行

国内研修旅行

情報ネットワーク工学科 4年 安部 広夢

私達は名古屋、関西方面へ4日間の研修旅行へ行きました。研修旅行の目的は、企業などの見学および自主研修を通じ見聞を広めるとともに、進路決定の参考にすることでした。

1日目のトヨタ産業技術記念館の見学の際には、車で有名なトヨタは始め画期的な織機を作り続けていたことがわかりました。2日目午前のシャープ歴史館・技術館の見学では、電子レンジの「チン」という音はシャープ製品から始まったことを知りました。また、トヨタもシャープもその時代時代で、どのようなものが使いやすいか、使ってみたいかなどを考え抜き工夫されてきたことが製品から伝わってきました。

2日目午後の企業見学先のNTT西日本大阪支店では、私達の暮らしの中で重要な通信にかかわる機器をたくさん見学させていただきました。何よりも記憶に残ったのはとう道と呼ばれる地下にあるケーブルが通る道を見学したことです。ケーブルの塊が果てなく続く地下道を巡っている光景は迫力がありました。私達は情報ネットワーク工学科ということもあり、このような通信設備を実際に見せていただいた経験は非常に刺激になりました。

この研修旅行で見えて聞いて感じたものは、私達の中で直接的ではなくとも今後のことを考えるにはとても良いものになったと思います。3日目の自主研修もみんなそれぞれに楽しんだようで、それも含めてよかったです。



シャープ歴史館・技術館にて

文芸コンクール・読書感想文コンクール

文芸コンクール・読書感想文コンクールが開催されました

学生の読書意欲の高揚と文章の読解力及び表現力の向上を図ることを目的に、広瀬キャンパスは文芸コンクールとして読書感想文部門、創作部門、紹介・書評部門の3部門、名取キャンパスは読書感想文コンクールとして作品募集を行い、今年度の受賞作品が決定しました。

広瀬キャンパスは、1月19日(月)に表彰式を実施し、学生15名の16作品に対し内田校長から賞状並びに副賞が授与されました。創作部門に応募された俳句・短歌は短冊にして広瀬キャンパス図書館入り口に掲示しています。また、小説については冊子に製本して、図書館で閲覧と貸出しを行う予定です。

名取キャンパスでは2月23日(月)に表彰式を実施しました。応募総数331編の中から8名が入賞し、校長から賞状並びに副賞が授与されました。

<広瀬キャンパス>

■第一部(読書感想文部門)

・優良賞

知能エレクトロニクス工学科3年 伊藤 満里奈 『天使の梯子』を読んで

■第二部(創作部門)

・優秀賞

情報ネットワーク工学科3年 前田 充 『交換ノート』
 情報システム工学科3年 菊地 伸一 『漫画で人生を豊かに』
 情報システム工学科3年 エルアッサー 菜々 (短歌)
 知能エレクトロニクス工学科3年 伊藤 満里奈 (短歌)
 情報システム工学科3年 五十嵐 文 (俳句)
 情報ネットワーク工学科2年 松原 萌子 (短歌)

1年1組 箱石 宇宙(短歌)
 1年2組 大野 未智(俳句)
 1年2組 片山 堅斗(俳句)

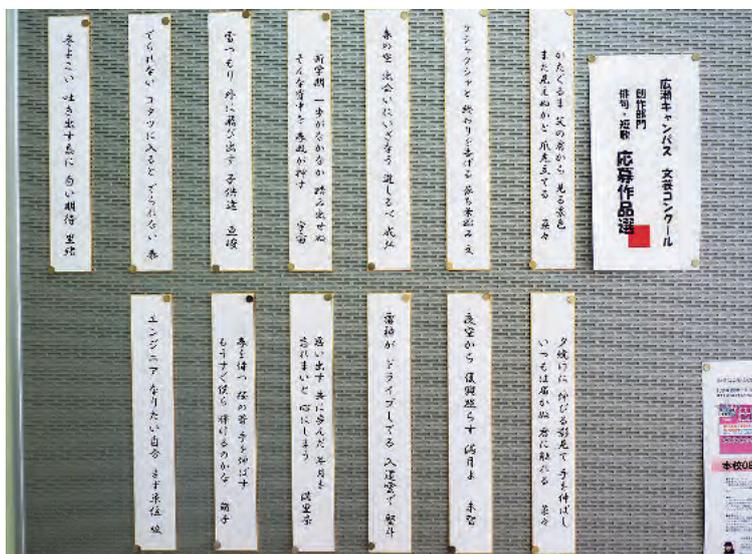
・奨励賞

1年3組 奥山 泰成(俳句)
 1年3組 千葉 亘峻(俳句)
 1年3組 石井 駿(俳句)
 1年3組 高橋 里緒(俳句)
 1年3組 伊藤 成弘(俳句)

■第三部(紹介・書評部門)

・優良賞

情報ネットワーク工学科3年
 西鳥羽 陽 書評『塩の街』



<名取キャンパス>

■読書感想文

・最優秀賞

該当者なし

・優秀賞

電気システム工学科2年 高橋 輪太 「こころ」を読んで
 電気システム工学科2年 小原 雅輝 「こころ」を読んで
 建築デザイン学科1年 大竹 晶 「自分にできること」

・佳作

機械システム工学科2年 小泉 匠馬 私達とこころ
 電気システム工学科2年 鹿野 晃弘 『こころ』を読んで
 マテリアル環境工学科1年 佐藤 萌花 「沈黙」
 マテリアル環境工学科1年 中嶋 詩織 形を読んで
 建築デザイン学科1年 九良賀野 佑菜 『バカの壁』の先には



教職員からの教育研究・業務紹介

名取（教員）

マテリアル環境工学科 助教 森 真奈美



生体材料とは一般に生体組織と接触して使用される材料全般を指しますが、中でも生体用金属材料は他の材料と比較して強度が高く、靱性とのバランスに優れているという特徴があります。したがって、人工股関節やステント等の多くの医療用デバイスに用いられていますが、例えば人工股関節は体内埋入後10年程度経つと劣化により交換しなければならず、それらに用いられる生体用金属材料の特性改善は必要不可欠です。

当研究室では金属材料を加熱する（熱処理）、叩く（鍛造）、伸ばす（圧延）といった方法（これらを総称して「加工熱処理」と言います）を用いて、材料特性向上にアプローチしています。また、様々な分析機器を駆使して、特性発現メカニズムの解明にも取り組んでいます。

建築デザイン学科 教授 坂口 大洋



東日本大震災発災後は、研究室として様々な団体と連携しながら、被災地の調査や復興支援に駆けずり回っています。全国の美術館・劇場などの被害・復旧調査や改修支援、石巻市の雄勝法印神楽の仮設舞台の設計などがその一部です。

発災直後から継続的に関わっている一つが、福島県川俣町の集落再生。ここでは集落の方々との住まい調査や遊休施設の活用方法を農家のおじいちゃん、おばあちゃんと膝を突き合わせ考えています。

最近ではキャンパスのある名取市閑上地区のまちづくり。嵩上げ後の地区の将来像を住民の方々との研究室で制作した模型、図面、CGなどを使い、毎週喧々諤々の議論をしながら個々の思いを少しずつ具体化させるお手伝いをしています。

広瀬（教員）

情報ネットワーク工学科 准教授 岩井 克全



私は医療用赤外伝送路の「中空ファイバ」の製作について研究を行っています。今年は、3名の学生と一緒に研究に取り組みました。研究内容の一例を上げます。お医者さん用の特殊な光ファイバを製作しよう。髪の毛の半分の細さのガラスチューブの内側に銀の膜をつけたけれど、どうする？こつこつと研究して頂いた結果、こうすればできるといふ、次に繋がる研究成果を出して頂きました。この光ファイバが完成したら、国際学会で発表できる成果になるでしょう。

研究に興味を持ってもらい、自ら学ぶ姿勢を持ってもらえると、よい研究成果が期待できます。個々の学生に向き合った教育研究を実施したいと思っています。

情報電子システム工学専攻 教授 松枝 宏明



これまでは主に自身の研究活動や学外職務を通じて、学生達の勉学意識の向上や高専の総合的な地位向上に努めてまいりました。しかし昨今の大幅かつ急速な教育改革の流れを見ると、研究実績の蓄積を大前提としながら、今後は組織のレベルアップにも本格的に貢献しなければなりません。2月1日付で教授に昇任し、責任を新たにしております。

高専在職丸8年となり、最初に担任した学生達がこの春専攻科を卒業しました。またここ10年、量子情報理論を基軸とした量子物性・量子重力の融合領域の構築を手掛けていますが、この研究成果も専門書という形で近々発売されます。これらを区切りとして、教育研究に新機軸を打ち出していければと考えています。

名取（職員）

管理課会計係 高橋 朋子



私が所属する会計係は、予算の管理や物品の発注・検収・支払、旅費・謝金の支払、宿舍・公用車の管理など様々な業務を行っております。その中で私は、先生から購入依頼がでてきた授業および研究で使用する物品の発注・検収・支払業務を主に行っております。

高専では先生が直接業者へ発注することは認められていないため、会計係は先生と業者を仲介するような役割となりますが、会計係に異動してくる前の職場では先生や事務職員同士とのやり取りが大半で、業者とやり取りをするような機会はなかったので、そこは今までにない業務で新鮮さを感じております。

広瀬（職員）

施設課施設係 主任 荒生 諭史



施設課では、建物・設備のメンテナンス、修繕、改修等、校舎の維持管理に関する業務を行っております。施設の改善および利用計画等は学内の施設・環境マネジメント委員会において策定しております。平成26年度に実施した主な工事は広瀬キャンパスでは11号棟の天井落下防止対策、4号棟・6号棟の改修、名取キャンパスでは総合科学教育棟・情報デザイン棟の改修を行いました。

今後も学生・教職員の皆さまが安全かつ快適に過ごせるような環境作りを行っていきたいと考えております。

退職教職員からのメッセージ

退職を迎えて

(名取)マテリアル環境工学科 教授 鈴木 吉朗



本校に赴任して17年になる。月並みな感想となるが、早いものだ。この間、専門棟改修、カリキュラム改定、統合再編など様々なことがあり、金属工学科から出発した材料工学科はマテリアル環境工学科へと名実ともに大きな変身を遂げた。その都度、矢面に立つ巡り合わせとなったが、旧世代の先生方から新世代の先生方へとバトンを繋ぐ最低限の役割は果たせたかと満足している。

しかし、此処のところは、老化による馬力の低下に介護の負担が加わり、不本意な結果を招くこともしばしばで、「老兵去るべし」を自覚せざるを得なかった。この場をお借りして、諸先生方、事務の方々、そして学生の皆さんのお心遣いに感謝申し上げます。

本校に勤めての楽しみは、学生諸君の成長を目の当たりにできることだった。両親に連れられて不安げに坂を上ってきた皆さんが、5年後大人の顔つきに変わり、胸を張って坂を下って行く姿を見送るのは大きな喜びだった。時代がどうあれ、人生はエンタープライズだ。「一発かましてやれ」と後ろからいつも声をかけていた。もうじき私も坂を下る。幸い時間もお金もある(かな?)。卒研では扱えなかった筋の悪い課題に挑みたいと思っている。

第2の人生は楽しい日々でした

(名取)CO-OP教育センター 教授 櫻井 宏



17年前の4月1日、東京の会社員から、縁あって旧宮城高専に着任しました。大学院生時代は「鳴かず飛ばず」で学位を取得できず、第1希望の研究・教育機関への就職はかなわなかったのが嬉しい限りでした。また、多様なことを経験する日々の始まりでした。担任、授業、卒研指導と大変なときもありましたが、学生の皆さんは総じて素直で優秀で、楽しい日々を過ごすことができました。

そうですね、最も悲しかったこと、さびしかったことは、約3年半前、研究室の女子卒業生が、1歳にも満たないお子さんを残して、突然、病気で26歳の若さで逝ってしまい、埼玉県川口市での葬儀に出席したときでした。また、統合再編により情報デザイン学科が消滅してしまったことです。

逆に、特に楽しかったこと、嬉しかったことは、研究室の卒業生や担任を務めた卒業生の披露宴に19回、披露宴2次会に7回出席し、直に、彼らの成長と幸せな姿に触れることができたことです。

学生の皆さん、先輩後輩の教職員の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。また、在校生、卒業生の皆さん、教職員の皆さんのご多幸と仙台高専のご発展を心よりお祈りしています。

過去、現在、未来へのエンジニアのバトン

(広瀬)地域イノベーションセンター 教授 羽賀 浩一



私が仙台高専(旧電波高専)に着任してから早くも21年が経過し、無事に定年退職を迎えることが出来ました。私は企業で16年勤務してから本校に赴任したので、エンジニアとしての経歴は37年になります。企業では若手技術者の新人教育や特許教育等は経験していましたが、本校の先生方のように学問としての教育経験は皆無でしたので、当時は企業経験者の教育・研究の道筋について何時も考えていたような気がします。

授業では「製品のどこに利用されているか」を力説して講義し、卒業研究では「研究の目標、研究時間、進捗管理表」を毎週報告させていたことから、「授業では雑談が多い」とか「鬼の卒業研究室」などと噂されていたと聞いています。本校に着任した当初は私の専門分野である半導体デバイスの試作・評価設備は殆ど無く、直ちに半導体の研究が出来る環境ではありませんでした。

21年の歳月をかけて半導体の教育・研究が出来る環境作りを進め、定年まで産学連携、特許出願、学術貢献、特許教育と企業経験者の独自路線で走り抜けました。教職員の方々、学生諸君にはずいぶんご迷惑をかけましたが、近い将来も仙台高専が教育・研究の高度化路線を突き進んでいくことを心から願ってやみません。

退職教職員からのメッセージ

退職雑感

(名取)総務課 課長補佐 大場 得志



在職中は大変お世話になりました。誠にありがとうございました。昔語りを少々させていただきます。かつて公文書や辞令等を作成するときは、タイプライターで清書していた時代がありました。正確にはタイプライターを操作できる技能をもったタイピストの方がその業務を担当しておりました。もちろんタイプライターは和文専用のもので、一人では持ち運びができないほどの重量がありました。英文のタイプライターですと、現在のパソコンのキーボードの原型となっただけですので、50個ぐらいのキーを操作するだけで文章を作成できますが、和文のそれは、膨大な数の漢字を使用するので、活字を探しながらの大変な作業となります。しばらくして誰でも打てる簡易タイプライターなるものが出てきて、タイピストでなくても使うことができましたが、修正が必要な場合などは簡単ではありませんでした。その後1980年代になってワードプロセッサが急速に普及して文書作成が誰でもできるようになり、タイプライターはいつの間にか姿を消していきました。タイプライターからワープロに代わり、さらにパソコンの時代が到来し、今はどんな文書も作成できるようになりましたが、科学技術の発達は我々の業務にも大きな変革をもたらしてくれました。

きっかけ

(名取)教育研究技術支援室 後藤 政純



私自身が行動に移すことになった、きっかけ(動機・分岐点)について綴ります。

一つ目は卒業4年後、当時の職場よりもっと安定した仕事を探して公務員を年齢制限ぎりぎりまで受け合格、宮城高専へ採用され目的を達成しました。

二つ目は従来の出張以外の、技術職員主催による「機器・分析技術研究会」・「実験・実習技術研究会」(総合技術研究会)への参加です。これは大学・研究所・高専の技術職員が成果と失敗も発表できる研究会で、各所にて働く技術職員が専門分野の視野を広め、学校を超えたネットワーク作りを呼びかけ開催されるもので、井の中の蛙状態を覆す活動を実践している技術者集団です。懇親会の席で全国の大学持ち回りでの開催に誘われ、自身でどこまで参加出来るか努力した結果、平成18年度から平成26年度まで連続参加(平成23年3月の東日本大震災以外)を続けました。結果、全国大学・研究所・高専の技術職員200名以上の方々と知り合い、専門分野ネットワークの末端にて活動出来るまでになり、ちょっとした「きっかけ」にて目的を達成しかつ多くの仲間を得ることが出来ることを実感しています。

読んでいただいた方々も、ちょっとした「きっかけ」を大事にして行動を行ってください。



活動状況報告

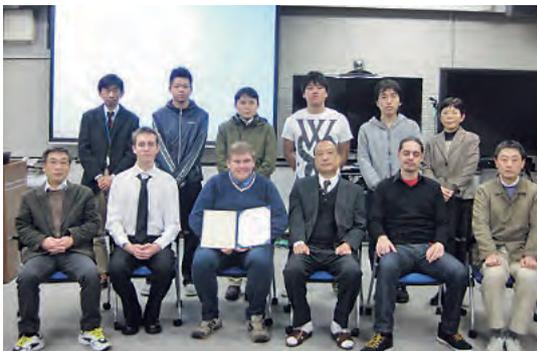
国際交流

国際交流委員会委員長 名取:教授 本郷 哲 広瀬:教授 藤木なほみ

広瀬キャンパスの海外研修生受入では、トゥルク応用科学大学(TUAS)より1名の学生が4か月間、ヘルシンキメトロポリア応用科学大学(HMUAS)より2名の学生が約6か月間研修を行いました。3名は研修の傍ら、高専祭や低学年の英語の授業の見学、お茶やお花の体験など様々なイベントに参加しました。学寮主催のゲーム大会では日本古来の遊びに興じました。TUASのユホ君は茶道部に正式に入部して盆略のお点前に挑戦し、お点前セットを購入してフィンランドに持ち帰るほど関心を持ったようでした。派遣では、11月に、4年生有志が研修旅行でタイのキングモンクット工科大学(KMITL)を訪問しました。バンコックの市内観光では、春に本校を訪れたKMITLの学生達が観光スポットを案内してくれるなど、楽しい時を過ごしたようです。2月には、半年間の長期海外インターンシップに参加した学生達も無事帰国し、その報告会では、様々な国籍を持つ留学生との楽しかった交流やパリで注意しなければならない署名詐欺やミサンガ詐欺の手口を面白おかしく紹介しました。その他、タイ日工業大学の工学部長と学生達、アメリカのシカゴ教育委員会の方々などの訪問がありました。

名取キャンパスの受入では、10月末から11月初めにかけて、フェリックス・フェッヒエンバッハ・ベルーフスコレーク(FFB)から10名の研修生と2名の教員を受け入れ、ホームステイや高専祭において多くの本校学生との交流を行いました。派遣では2名の学生が約半年間HMUASに滞在し、自らのプロジェクトや勉学をすすめてきました。

今年度の後期は、受入れも派遣も少なめだったこと、後期も何回か企画した交流イベントへの本校学生の参加も少なかったことが残念でしたので、来年度は多くの方に国際交流に参加いただくことを期待しています。



フィンランド研修生の成果発表会



IUT Lilleでの学生間交流の様子



フィンランド研修生の華道体験



FFB学生との交流

キャンパストピックス

名 取

総務課庶務係

文部科学事務次官の本校視察について

平成27年1月29日(木)に、山中文部科学事務次官が仙台高専を訪問し、名取キャンパスを視察されました。

内田校長及び両キャンパスの総務担当副校長から高専や本校の状況についての説明後、内田校長らの案内によりアクティブラーニングを取り入れた授業の様子や地域イノベーションセンター、昨年度図書館改修により新設したアクティブラーニング教室、創造教育センター、建築学科棟などの各施設を見学されました。

最初の3年生の電子回路の授業では、学生の解答が教員の手元に瞬時に伝わるICTを利用した授業を興味深く視察されました。

また、創造教育センターでは、大学ロボコンに出場予定のバドミントンロボットを製作した学生からロボットの操作方法や完成に至るまでの改善点等の説明があり、事務次官から大会出場を目指す学生に激励をいただきました。

最後に、建築学科において、震災復興プロジェクトについての説明を熱心にお聞きいただきました。高専の現場を見ていただくことができ、大変有意義な時間となりました。



アクティブラーニングを取り入れた授業の様子を視察



創造教育センターにて製作したロボットの前で学生と会話を交わす山中事務次官



建築学科において震災復興プロジェクトについて受ける山中事務次官

広 瀬

施設課施設係

4号棟の改修工事について

平成26年度営繕事業により、10月から3月にかけて広瀬キャンパス4号棟の改修工事を実施いたしました。今回の改修は高度化再編の学科統廃合に伴う、講義室の集約、教員室・実験室の整備ならびに設備の老朽化改善になります。

1階部分は南側にあった講義室5部屋を改修し、総合科学系教員室13部屋とコモンスペース1部屋を設けました。北側は2階から物理実験室・化学実験室を移設し、総合科学共通実験室とあわせて実験室3部屋を整備いたしました。2階部分は北側が実験室の移設により空きスペースとなったため、共通スペースを整備いたしました。また、あわせて1階・2階の照明設備、空調設備の更新を行いました。共通スペースについては今後、施設・環境マネジメント委員会で有効活用の検討を行い運用していく予定です。

工事期間中は、学生・教職員の皆さまには大変ご不便をおかけいたしました。皆さまの多大なるご協力に対し感謝申し上げます。



明るくなった廊下



多目的利用が可能な共通スペース

研究室案内

「關研究室」

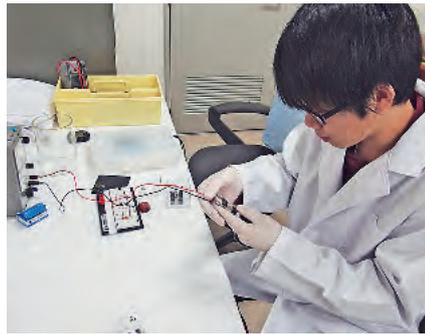
広瀬キャンパス 知能エレクトロニクス工学科 准教授 關 成之

知能エレクトロニクス工学科の關研究室は、現在1名の専攻科2年生、1名の5年生および3名の4年生(プレ卒)をメンバーに擁しております。

当研究室では、電気・電子の分野で用いられる半導体材料の他に、スマートウィンドウや手作り有機ELなどの素子作りにも挑戦しております。これら素子作りの根底を支えているのが薄膜技術で、ミストを利用した化学的手法によって透明導電膜や絶縁膜、有機導電性薄膜などを積層しています。当研究室の卒業研究・専攻研究課題としては「ミスト成膜法」をより高度化して、複雑な組成や積層構造を有する薄膜を作りだせる技術を確認していきまします。これにより得られる薄膜の電気特性、光学特性、仕事関数などを巧みに制御し、有機EL素子に有用な透明電極やスマートウィンドウの色変化を促す新素材、透明薄膜トランジスタや薄膜センサといった電子素子などの創造を目指します。



卒研発表の練習をする卒研究生



スマートウィンドウの実験を行うプレ卒研究生



国際会議で発表する専攻科生

教育研究支援基金事務室からのお知らせ

仙台高等専門学校教育研究支援基金について

「仙台高等専門学校教育研究支援基金」は、①教育・研究の推進等、②学生への奨学金等、③産学連携・地域貢献、④国際交流活動等、⑤キャンパスの環境整備等、⑥その他基金の目的達成に必要な支援等のために活用させていただいています。

本校は、「仙台高等専門学校教育研究支援基金」を生かして更なる向上を目指して参ります。今後とも、皆様のご理解と格段のご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。ご寄附の方法は本学ホームページに詳細を掲載しております。ご不明な点等については遠慮なく、お問い合わせ願います。

「仙台高等専門学校教育研究支援基金」についての問い合わせ先

仙台高等専門学校教育研究支援基金事務室(総務課総務係)

TEL:022-391-5508

E-mail:kikin@sendai-nct.ac.jp

編集 後記

「仙台高専だより」の第2号をお届けいたします。仙台高専の魅力を知っていただくのが第一の目的ですが、それぞれのキャンパスの関係者が、お互いのキャンパスの様子をこれまで以上に知るよすがになればと思います。編集作業を進める過程で、それぞれが統合前に育んできた「学校文化」の違いに改めて気づかされることが多々ありました。

ところで、電子書籍も普及したのに、なぜデータファイルだけでなく紙媒体なのか、という声が聞こえてきそうです。たしかにデータファイルは簡便ですが、紙媒体の場合、印刷に回すという「決断」があります。ホームページ上にアップするのに比べ、格段に慎重になります。その分だけ、良いできばえになるような気がします。

ご意見ご感想いただけますと幸いです。(編集委員:武田 拓)

仙台高専だより【第2号】 平成27年(2015年)3月 発行:仙台高等専門学校

〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央四丁目16番1号

電話:022-391-5513(総務課情報企画係) ホームページ <http://sendai-nct.ac.jp/>